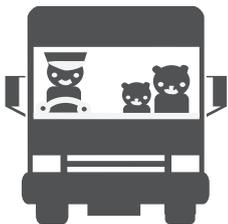


「であい・ふれあい・まなびあい」から
「つながりあい・ささえあい」へ

おおっ! おおか! 再発見 大岡集楽学校

ご好評をいただいている『大岡集楽学校』が今年度も開催されます。昨年度に続き、元長野県立歴史館総合情報課長の宮下健司先生を講師にお迎えし、長野市大岡支所・大岡小中学校との共催事業として実施いたします。今年度は、中央・中部根越・芦ノ尻・笹久の五地区を探訪、第一回目の開催は中央区です。今年度の『大岡集楽学校』をよろしく願います。

大岡地区住民自治協議会 会長 中村哲夫



其之⑥
中央
ちゅうおう
平成28年
4/30(土)

中央区コース概略

移動は長野市マイクロバス
(28人乗り×3台、うち1台は中学生)

- ◆天候によってはコース内容が変更になる場合もあります。
- ◆移動はバスですが、地域めぐりは徒歩となります。
- ◆歩きやすい靴で。雨具・飲み物等は各自でご準備下さい。
- ◆バス以外の(★印)「講師のお話」部分参加も可能。

支所前(バス受付)開講式

⇒宮平 宮大岡神社・市場跡・道祖神
六地藏・樋ノ口沢の地藏堂

⇒樺内 薬師堂・筆塚・道祖神

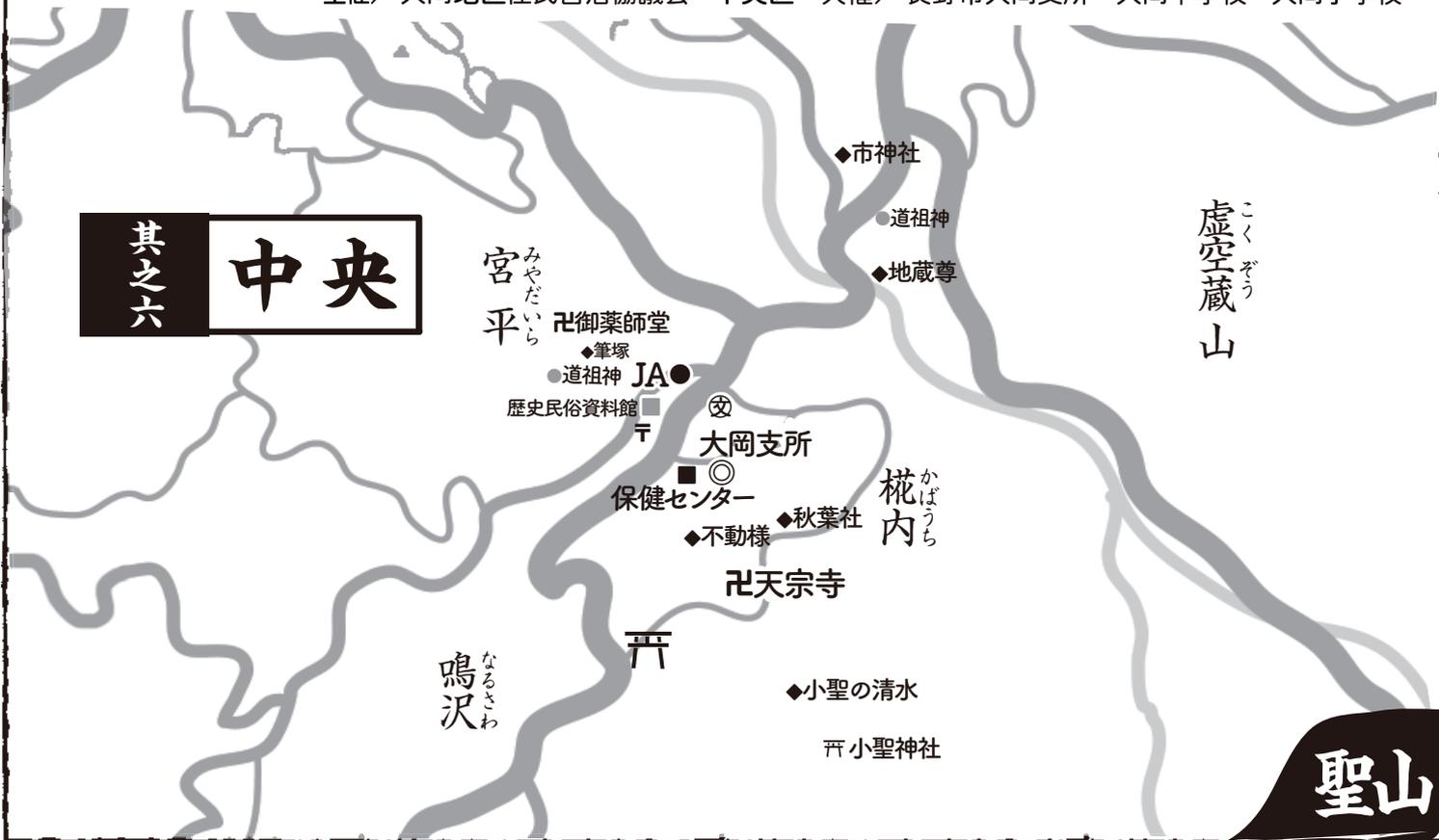
⇒昼食天宗寺 中央区の方々による協力

⇒天宗寺周遊 堀跡・小聖神社
秋葉社・鳴沢

(天宗寺)

⇒講師のお話・座談★
スライドで集落探訪

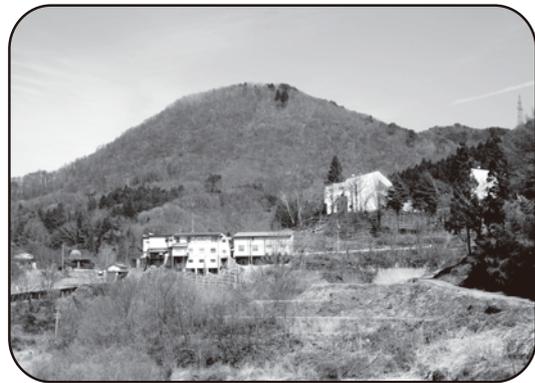
主催／大岡地区住民自治協議会・中央区 共催／長野市大岡支所・大岡中学校・大岡小学校



其之六
中央

虚空蔵山
こくぞう

聖山



虚空蔵山 宮平の東にあって、山頂平坦地に祠があり、直下に三本杉がそびえ立っています。

1 宮平 集落を歩く

みやだいら

道を中心に発展した、かつての商業地帯。

◎江戸時代「大岡三千石」のうち、三分の二は宮平組でした。現在二十七戸が住んでいます。生活センターから立道（たつみち）を下ると右手（北側）に日本陣所家、大岡最初の郵便取扱所が置かれた家です。道を挟んで北側が赤土、南側には湧水があります。地すべりもある地層です。

宮平の市 みやだいら「いち」

◎江戸時代の大岡は「二村三組か」ら成り立っていました。宮平はその中心地として元禄九年（二六九六）に宮平市が立てられ賑わいました。「市」は凶作などの影響で一

時衰退しましたが、寛永元年（二七四八）十一月二十五日から再発足しています。界限には数件の宿屋もあり、明治初期には、「いずみや」「よろずや」「あぶらや（料理屋）」などが営業していました。

種屋 蚕の種を扱う種屋（中屋所家）もありました。宮平の湧水（7度C）に十四日間浸け、消毒してから孵化させると良い蚕が出来るそうです。

市日 市が開かれた「市日」は、毎月一・五・八・十一・十五・十八・二十一・二十五・二十八日。月九回開く九斎市です。売買されたのは・大岡の村々で漉いた和紙、たばこ、皮楮（かわこうぞ、紙の原料）、雑穀など。薪木が少なかった大岡村南隣の松本藩領の村々は、市に荷物を出した帰りに沢山の薪木を買っていきました。



市場跡に立てられていた市神さま 道路工事によって市場から、現在の場所に移されています。

物流センター

宮平は、信岡（信州新町）と松本を結ぶ道と、篠ノ井と大町を結ぶ道の交点にあって、信・岡・青柳・篠ノ井・大町・稲荷山への荷物中継拠点でした。明治五年（八七二）八月、宮平の吉原兵五郎は、「信州中牛馬会社」に加盟し、宮平に荷扱所を作ります。同じころ、近隣の桑原村・稲荷山町・孟津村日名・田ノ口村にも荷扱所が置かれ、九年ごろまでには県内限なく荷扱所が設けられています。

宮平の市神様



市神付近

吉原家取扱所窓口跡



郵便局

明治五年三月に国の郵便規則が定められ、吉原家（吉田屋）明治になって最初の戸長を務めた家です。明治二十三年十二月、所家から引継ぎ、吉原政男が郵便局長になっています。吉原家の大きな門の入口左側にそのころの「取扱い窓口」が残っています。

高市場

市場



宮平から犀川に下る尾根の中間に「高市場」集落があり、かつてここでも市（塩市）が立ち市神様が祭られていたと伝わっています。同集落の下が「茶屋畑」といわれ、茶屋があったようです。他に牧野島城（長野市信州新町）近くの下市場、篠ノ井へ向かう途中に原市場（同信更）などの名が残っています。宮平で市が盛んになる前からこの周辺には活発な商業の隆盛があったのかもしれない。

吉原家、土壁の民家門の左側に郵便局の受付が残る

2 宮大岡神社

みやおおおかじんじや

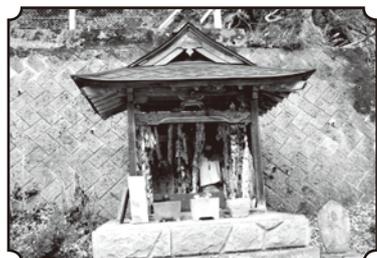
境内は湧水が
勢い良く湧き出て。

◎宮平生活センターに隣接、江戸時代の元禄年間（二六八八〜一七〇四）から「諏訪大明神宮」と「神明宮」が祀られていて、宝暦（二七五二〜六四）の神社二覧には「神明大明神宮」と記されているそうです（大岡村誌）。諏訪神社ですから祭神は、建御名方命・八坂刀売神の二柱とされます（他には八重事代主命）。一間×二間半の上屋の中に柱六尺寸の垂屋作り板葺きの「大明神宮」、柱五尺六寸の板宮作りの「神明宮」が納まっていた「文政の絵図面」神社のスタイルを踏襲した建物でしょうか。二反歩余の境内に八坪の籠殿があり、湧水が勢い良く湧き出ています。



◎道祖神

◎地蔵堂



地蔵堂樋ノ口沢のカーブにあるお堂で地蔵尊を祀っています。他に庚申塚、西国・四国供養塔、聖観音像が祀られています。

◎樋ノ口沢

樋は水などを導き送るため掛け渡した（木・竹等の）長い管のことで、樋ノ口沢は読んで字のごとく、その口に当たる場所。樋ノ口沢の水は、大岡の水田用水の1/2を占めています。安賀、梶平へ…梶平用水は堰堤の上で取水。堰堤の下からは梨木用水を取水。堰堤の上流4〜500メートル上流に水力発電所があり、支所で管理。現在は小中学校の電力として使用（2/3の電力を補っています）昭和34年までは水力発電を使ってパルプ工場が営業していました。堰堤下に車屋（水車小屋）がありましたが、昭和34年の台風7号で流されてしまいました。このとき他に1〜2軒の家が流されています。



宮大岡神社



石どうの中に
仏さまが！



3 六地蔵



旧本陣所家。宮平の最初の郵便取扱所でもあった。

津島社 宮大岡神社南側に吉原家の屋敷神「津島社」があります（金比羅社も合祀）。



◎算木積み（石垣の工法）
大きな算木積み（さんぎづみ、城郭の石垣の出角、隅石部分の積み方。長方形の石の長辺と短辺を交互に組み合わせ、強度を増す）の石垣。杉、椎の太木がある裏庭の崖面三カ所から湧き水が出て、シケヤシキ（湿気屋敷か）と呼ばれていました。

4 かばうち
樺内地区

「御薬師堂」を訪ねて。

◎樺内地区の北西に祀られており、本尊は薬師如来。脇侍は月光菩薩、日光菩薩。建立は正保四年（一六四七）。宝暦三年（一七五二）、弘化四年（一八四七）、嘉永三年（一八五〇）、安政三年（一八五六）、明治七年（一八七四）、明治二十二年（一八八九）にそれぞれ再建立されています。

◎薬師如来 薬師瑠璃光如来ともいわれ、瑠璃光をもって衆生の病苦、災禍を救い、仏の道を示し、無明の病を治すとされる仏さまです。施無畏（せむい）と願の印を結び、左手に薬壺（やくこ）を持っています。

◎昭和五四年（一九七九）にお薬師さまが盗まれたため、同五十七年、新たな仏像を祀り、今日に至っています。「薬師如来」の提灯は、「樺内青年中」の奉納です。



盗まれた仏像の面影を描いた軸

◎俳句奉納額は明治十五年、「め」と書かれた絵馬や石（穴あき石）。薬師如来は眼病平癒、視力回復に効験新たかな仏さま。将来の見通しが良くなるようにとの祈りも込めての奉納です

◎堂横に如意輪観音、地藏菩薩、庚申塔があります。卵塔に禅尼の文字が刻まれています。



薬師堂内奉納提灯



薬師堂内俳句献額



薬師堂右石像仏群



薬師如来三尊

庚申講のとき飾った「青面金剛像」の軸絵 二幅が残っています。

誠実にしてはじめて禍（わざわい）を福に変えることが出来る。術策は役に立たない。
尊徳の言葉より



二宮尊徳（金次郎）江戸後期の経世家、農政家、思想家。経世済民を目指して報徳思想を唱え、報徳仕法と呼ばれる農村復興政策を指導。かつて小学校の校庭には、薪を背負って本を読みながら歩く金次郎の石像（銅像）が数多くありました。

「二宮尊徳」銅版印刷肖像

おまつ！
ここがすごいぞ
大岡
よしみちメモ
樺内基幹集落センター

⑤ お不動様

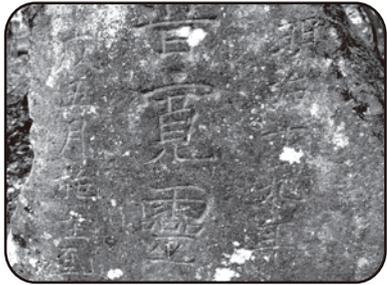
御嶽修験者の 水垢離霊地

◎樺内地区の南、湧き水源のある山地に三
体の碑が祀られています。



◎不動明王碑は石碑に不動明王像が線で刻
まれ、鍔が奉納されています。他に覚明霊神、
普閼霊神と刻まれた石碑が、地区の方向を
向いて並び立っています。

◎湧き水の地は、御嶽修験者の水垢離の霊
地だったのかもしれない。湧き水は現在
樺内地区二十軒の簡易水道として利用され
お茶、コーヒーなどの飲み水や料理に使われ
ています。水道水は洗濯などの洗い水です。
ぜひたくですね。



御岳講を拓いた行者の二柱を祀る。

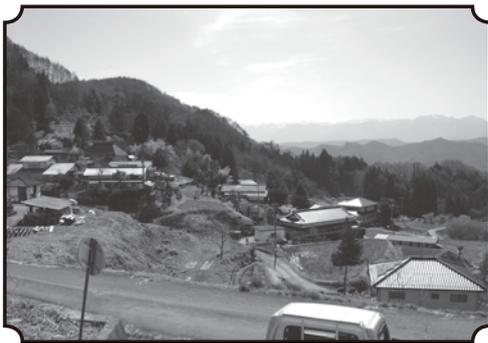


水垢離する行者も途絶えて久しいが
周辺は独特の聖地の雰囲気がある。



◎七五三の注連縄

横縄に右から七・五・三本の藁束を下げる七五三縄（しめなわ）
起源説のひとつは、天照大神が天岩戸を出た後、布刀玉命が
岩戸に張った結界だといひます。天神七代、地神五代、日向
三代の神々を表すと、割り切れない偶数で丈夫なしめ縄という
意味もあるそうです。



地区二帯はアルプスの展望が素晴らしい
白馬連山が一望できるワイドな景観。



◎秋葉神社

樺内地区南西、小聖神社北側の山上にあり、山頂付近に樹木が少なかった時代は、
樺内地区が良く見渡せる場所でした。火防の神様で、祭神は 大山祇命（おおや
まつみのみこと、山の神）、火の迦具土の神（ひのかぐつちのかみ、火防の神）です。
入口に石灯籠、鳥居は無く、二本の大きな樹の間に注連縄が張られています。

6 天宗寺周辺

てんそうじ

天宗寺

◎曹洞宗 牧田中(信州新町)興禅寺の末寺。文応年間(一二六〇〜六二)、香坂宗清がこの地に「法香庵」を建てたのが始。永禄二年(一五五九)、信玄に滅ぼされた諏訪頼重の妻華蔵院(菊御前)が天宗寺の前身「妙香庵」を建立。天正三年(一五七五)、武田信玄三回忌に牧之島城代馬場信春が開基に華蔵院開山に興禅寺七世明庵俊察を迎え聖雲山天宗寺を創建したと伝わります。

◎武田氏の時代、敵に対する備えとして妙香庵を囲むように砦が築かれ、堀や土塁が造られました。天宗寺は山城跡に建立されたお寺の様式をいまに伝えています。

◎城跡では、三日月堀(武田流の築城特有の堀)狐の巣穴(土目/つちめの場所)鹿の角の研ぎ跡などを見ることが出来ます。

◎慶安二年(一六四九)、幕府から寺領十石五斗の朱印状を授かっています。なお、更級郡内百余の寺院中、朱印寺は興禅寺、専照寺(信更)など七カ寺、神社は八幡宮だけです。本堂端に住職の乗った駕籠が残っています。幕末期の檀家数は六百戸(現在四百戸)でした。

◎宮平に末寺として常連寺・西連寺などがあります。



氏は平成27年現在、椹内、芦ノ尻、中部(中挟、石津、町田)、和平の83戸です。春祭4月21日、秋祭9月21日 鳴沢鳥居から本殿までのお練り、椹内地区の神楽、楽隊の奉納があります。

天宗寺の合掌桜

樹齢200年を越す2本のシダレザクラ(エドヒガンザクラ)で、参拝者が本堂に向かって合掌する姿のようなので、いつしか「合掌桜」と呼ばれるようになったそうです。

◎長野市指定天然記念物

左 樹高 約19メートル 直径 約1.4メートル
右 樹高 約19メートル 直径 約1.25メートル
左右の幹の間隔 13.3メートル



7 小聖神社

こひじりじんじや

◎椹内地区の南西、芦の尻地区との堺に本殿があり、入口鳥居は、参道入口の鳴沢側にあります。本殿脇には、豊かな湧き水水源があります。明治四十一年、官有地から地元地域に移管され、現在に至っています。水路は水源すぐ下で芦ノ尻(六分)とその他の地区(四分)に分かれて流れ、鳴沢地点で、さらに椹内と中部・和平地区に分かれ、田畑を潤したのち、犀川に向かって流れていきます。



「小聖の湧き水」
飲水場

香坂氏



◎香坂氏 「延喜年間(九〇一〜一三)滋野朝臣香坂宗清が草庵を結び」と記す古文書もありますが、寺伝では文応年間(一二六〇〜六二)、香坂宗清が法香庵(天宗寺の前身)を建てたとあります。興禅寺史にも「文応元年、牧之島の地を給わり」と記され、鎌倉時代中期に、牧之島を得て勢力を拡大していったようです。鎌倉幕府滅亡後は、六代心覚が南朝方を奉じ、牧城で挙兵。心覚の甥とも伝わる高宗は、伊那谷大河原(大鹿村)を領し、三十年にわたって宗良親王を奉じ戦っています。戦国期、香坂氏は武田氏に臣従し、弘治二年(一五五六)埴科郡英多庄に移り、海津城完成後は城番も務めますが、永禄四年(一五六二)、上杉家との密通を疑われ海津城で謀殺されました。香坂の名跡は武田方の春日虎綱が継承、高坂弾正忠を名乗ったと伝わります。

華蔵院

(華蔵院殿梅岩妙香大禅定尼)

天文十一年(一五四二)、信濃に侵攻した武田信玄が、諏訪氏を滅ぼし、当主頼重の妻菊御前(麻績氏の女華蔵院)とこの子、由布姫(諏訪御料人)を確保。のち菊御前は麻績に移され、姫は信玄側室となり勝頼を生んでいます。※女子の名は井上靖著『風林火山』から

時を経て移ろっていった聖山一帯の仏教文化の水脈があった。